

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 17 日現在

機関番号：32606

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2013～2014

課題番号：25580100

研究課題名(和文)「日本古典対照分類語彙表」による古典語彙の意味論的歴史的研究

研究課題名(英文) the historical study from the viewpoint of use frequency and meaning of word by using 'Nihon Koten Taisho Bunrui Goiho'

研究代表者

安部 清哉 (ABE, SEIYA)

学習院大学・文学部・教授

研究者番号：80184216

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：我々は、従来現代語にしかなかった意味分類体系による語彙表を古典17作品にて用例数付きで2014年に刊行した。これにより異なり語数34,366語の古典語の度数と意味分類番号を比較対照させた語彙史研究が可能となった。続編として宮島編『万葉集巻別分類対照語彙表』に協力し2015年刊行した。本データの応用的研究として、語彙の意味的史的変遷傾向、新しい観点からの研究の提唱、現代語「分類語彙表」との対照版など応用版の続編作成、上代～中世の意味史分析、現代語との対照的研究、古典シソーラスを増補するためのデータ作成を行い、今後の応用的研究として意味の計量的分析への見通しを立てることができた。

研究成果の概要(英文)：We published the word list where the use frequency and the meaning classification number had been fixed by using 17 classics literary works.

Moreover, we cooperated in the edit of the word list where the use frequency and the meaning classification number of each of the 20 volumes of 'Man-yo-shu' had been fixed.

These are the first one in Japan, as the vocabulary data that can contrast the meaning and the use frequency like these. We did a historical research that analyzed the relativity of the meaning and the use frequency by using these data.

研究分野：日本語学

 キーワード：対照語彙表 分類語彙表 計量語彙史研究 計量言語学 シソーラス 日本語古典文学作品 意味分類
文体と語彙

1. 研究開始当初の背景

日本語の古典語の語彙史研究は、文法・音韻など他の分野に比べて遅れていた。その進展には、索引やデータベースの完備のほか、使用度数語彙表や意味分類した所謂シソーラスの作成が不可欠であった。いずれも多くの時間と労力を必要とするからである。特に、意味分類体系語彙リストであるシソーラスは、現代語のものは国研の『分類語彙表』があるものは、古典語では用例1語毎に意味を特定する手間がかかるため実現が容易ではなかった。

宮島達夫が主導してきた我々のグループは、約20年にわたり、古典作品の実例に当たりつつ、客観的基準による古典語彙の意味史研究を目指し、古典のシソーラス作成の作業を営々継続してきた。2012年10月本邦で初めてのものとなる『日本古典対照分類語彙表』(17作品)の基本データを完成させるに至った(2014年春、笠間書院刊行予定)。これによって国研編の『古典対照語い表』『分類語彙表』に続き、その2つの特徴を古典語彙において統合させ、異なり語数34,366語の古典語の度数と意味分類番号が同時に比較参照可能である“日本古典文学作品対照使用度数および意味分類語彙一覧表”を使った語彙研究が可能となった。

次なる本応募研究での目標は、その表の発展的拡張版の作成(例えば、現代語との対照版など)とそれを利用した新しい語彙史研究、意味史研究の応用研究を提唱し、主導していくことである。

(宮島氏は、現在年齢上の理由で書類上構成員としては名を連ねない。)

2. 研究の目的

(1) 日本語のシソーラス=意味分類体系による語彙研究は、従来現代語対象のみであった。我々は、宮島達夫が主導の下、実例に即し客観的基準による古典語彙の意味史研究を目指し、約20年間の研究成果として初めて「日本古典対照分類語彙表」(17作品)の基本データを完成させた。

(2) 本研究では、「日本古典対照分類語彙表」(以下「古典語シソーラス」)を利用し、応用的利用法の開発と新研究の提唱、現代語「分類語彙表」との対照版など応用版の続編作成、上代～中世の意味史分析、現代語との対照的研究等、古典語彙の意味史研究の領域を開拓する。

(3) 本研究は、古典語彙34,366語を『分類語彙表』と同基準で分類した最初のデータにより、古典語の意味史研究、現代語との意味論的対照研究を、客観的飛躍的に発展させるものとなる。

3. 研究の方法

(1) 「古典語シソーラス」を利用し、次のような計画と方法で研究を進める。

応用的利用法の開発と新研究の提唱
本表を利用することでどのようなことが新たに解明できるか、その実例的研究を多く提示することを目的とする。それによって、新研究を促進させることができる。(例えば、「乗り物」に陸海空の区別があり古典には先入観で空の乗り物は存在しないように思われるが実例では「岩舟」(万葉集)の存在を確認できる。実例によって思い込みでない古典の意味世界を開示できる。)

現代語「分類語彙表」との対照版など応用発展版等の続編作成

本表を元に、さらに「分類語彙表」との対照版を作成したり、新データを追加したり、様々な角度から改編した一覧表を続編として、作成する。例えば、既に、分類番号順での語彙リストとして「古典対照語彙表」を公表すべく印刷中である。

上代～中世の意味史分析

17作品は万葉から平家物語まで、奈良・平安・鎌倉の3時代にまたがって語彙の度数が「古典対照語い表」よりも、さらに詳しく明らかになった。時代を比較した用例数の変化がより詳しく解るようになった。

現代語との対照的研究

現代語との対照表を作成することによって、意味分野による古典語と現代語での語彙の多寡などの比較が可能となる。

古典語彙の意味史研究の新領域を開拓

奈良・平安・鎌倉の3時代にわたり意味分野の偏りや特徴を解明することが可能になる。分類番号毎に所属語彙を比較することで、意味史の通時的研究が可能になる。

(2) 本研究テーマに関わってわれわれは、宮島達夫氏(国語研究所名誉所員)の主導のもと、作成作業を共に行ってきた。今回も、鈴木・石井・安部が意見交換しながら作業を分担する。研究代表の安部は、語彙史研究の立場から、宮島の指導と助言を仰ぎつつ、事務的作業やデータ管理作業を分担する。鈴木・石井は、それぞれの専門の立場から、宮島との意見交換を行いつつ、データの分析と改訂について建設的意見を提示する。宮島達夫氏は、現在年齢上、所属機関を離れているので書類上構成員としては名を連ねられなかったが、その指導を仰ぎつつ、本研究を進めて行く予定である。

石井久雄などの作品追加の計画もあるので、今回は表の現代語対照版などの拡張版の作成と改訂計画に限定して、あえて単年度で申請することとした。(宮島達夫氏は『万葉集』の巻別語彙表の完成も近く、今回の応募

研究では、それとの対照版などの計画も検討されている。)

4. 研究成果

我々は、宮島達夫主導の下、従来現代語のみが対象であったシソーラス = 意味分類体系による語彙表を、古典 17 作品で用例数も合わせるかたちで 2014 年 6 月に刊行させた。即ち、国研編の『古典対照語彙表』『分類語彙表』の 2 つの特徴を古典語彙において統合させ、異なり語数 34,366 語の古典語の度数と意味分類番号が同時に比較参照可能である“日本古典文学作品対照使用度数および意味分類語彙一覧表”を使った語彙研究を公開させることができた。さらに続編として宮島編『万葉集巻別分類対照語彙表』編纂にも協力し 2015 年刊行にこぎつけた。

これらにより、実例に即し客観的基準による古典語彙の意味史研究のデータの基礎が構築された。

この作成過程での経験とそのデータの応用的利用によって、以下の諸点を

語彙の意味的史的変遷傾向を指摘する道筋を付けることができた(安部(2013.6, 2014.3)「日本語語彙の歴史的構造変化とそこから見た和漢 2 文体の類型指標」・「シソーラスから見た昭和語彙(雑誌九十種)から平成語彙(雑誌 70 誌)への意味領域上の語彙変化」)。また、この「古典語シソーラス」を利用し、新しい観点からの研究の提唱(蓮井論文等)、現代語「分類語彙表」との対照版など応用版の続編作成(安部ほか(2013.2)「古典分類語彙表(稿)」) 上代～中世の意味史分析(久保論文等)、現代語との対照的研究(安部(2014.2)「名詞の変遷 通時的变化の諸相」)、古典シソーラスを増補するためのデータ作成作業(安部「夜半の寝覚」、石井「とりかへばや」)などの研究を推進した。本研究によって、古典語彙 34,366 語での新たなシソーラスデータによる意味史的語彙論研究の新領域を開拓する道筋を付けることができた。今後古典作品の増補、意味の計量的分析の応用研究などをさらに実践的に試みていく予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 8 件)

- (1) 安部清哉(2014.2)「名詞の変遷 通時的变化の諸相」『品詞別学校文法講座 第 2 巻』第 8 章、pp.217 - 261、明治書院、総頁数 pp.368、
- (2) 安部清哉(2014.3)「シソーラスから見た昭和語彙(雑誌九十種)から平成語彙(雑誌

70 誌)への意味領域上の語彙変化』『玉藻』48、横 pp.1-13、フェリス女学院大学国文学会

- (3) 鈴木 泰、「にくむ」「うらむ」における心理的なかわりへの移行、研究会報告- 連語論研究 (日本文法研究会)、4. 巻 36 号、2014.12.10、21-28、DOI ISSN 1343-7550
- (4) 久保香珠(2014.10)「平安時代の「スク」語幹語彙の語義比較小考 スクム・スクヨカとスクスク(ト)・スクスクシ」『学習院大学人文科学論集』23、pp.67-99、学習院大学文学会、
- (5) 久保香珠(2015.3)「平安和文資料における「なよ」系派生語彙の語義比較 なよなよ・なよよか・なよらか・なよびか」『人文』13、pp.2-26、学習院大学人文科学研究所、
- (6) 久保香珠(2014.3)「古代語体系から近代語体系への移行期における和漢対立語の意味変化 『のがる』『まぬかる』を例として」『学習院大学国語国文学会誌』57、pp.3-19、学習院大学国語国文学会、
- (7) 蓮井理恵(2014.3)「動詞・副詞・形容語の「和語対非和語語種比率」(RJF)による現代日本語文体の計量的比較考察」『学習院大学国語国文学会誌』57、横 pp.1-20、学習院大学国語国文学会、
- (8) 蓮井理恵(2014.3)「動詞・形容詞・副詞における語種比率(RJF)を用いた文体分析 公人のスピーチ・「天声人語」・女性ファッション誌記事を事例に」『学習院大学大学院日本語日本文学』10、横 pp.18-43、学習院大学大学院人文科学研究科日本語日本文学専攻、

〔学会発表〕(計 1 件)

- (1) 安部清哉(2014.04.26)「昭和語彙(雑誌九十種)から平成語彙(雑誌 70 誌)へのシソーラス上(意味分類体系)の語彙変化小考」第 190 回青葉ことばの会、学習院大学北 2 号館 10 階大会議室、

〔図書〕(計 3 件)

- (1) 宮島達夫・鈴木泰・石井久雄・安部清哉 共編(2014.6)『日本古典対照分類語彙表』印刷部分 pp.1147、CD データ 1 枚付、
- (2) 宮島達夫(2015)『万葉集巻別対照分類語彙表』、pp.253、CD データ 1 枚付、
- (3) 山口佳也・木村義之・阿久澤忠・武田比

呂男・植木朝子・中川秀太・市村太郎・
安部清哉・寺田智美(2014.2)『品詞別学
校文法講座 第二巻 名詞・代名詞』,
(pp.1-325),明治書院,(執筆は第8章、
安部清哉(2014.2)「名詞の変遷 通時
的变化の諸相」, pp.217 - 261)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)
取得状況(計 0件)

6. 研究組織

(1)研究代表者

安部 清哉 (ABE Seiya)
学習院大学・文学部・教授
研究者番号: 80184216

(2)研究分担者

鈴木 泰 (SUZUKI, Tai)
専修大学・文学部・教授
研究者番号: 70091832

(3)連携研究者

石井 久雄 (ISHII, Hisao)
同志社大学・文学部・教授
研究者番号: 70124188

以上